

▼パシーフカプセル [内]

- 【重要度】 【一般製剤名】 モルヒネ塩酸塩水和物 morphine hydrochloride hydrate 【分類】 持続性癌疼痛治療剤
- 【単位】 ▼30mg・▼60mg・▼120mg/Cap [徐放性カプセル]
- 【常用量】 1回 30～120mg [詳細は添付文書参照]
- 【用法】 1日1回 [詳細は添付文書参照]
- 【透析患者への投与方法】 減量の必要はないが、代謝物による副作用に注意 (5)
- 【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要はないが、代謝物による副作用に注意 (5)
- 【特徴】 モルヒネ塩酸塩水和物の速放性粒と徐放性粒を充てんしたマルチプルユニットタイプの徐放性カプセル剤。
- 【主な副作用・毒性】 嘔気・嘔吐、便秘等の消化器症状、眠気、薬物依存、呼吸抑制、錯乱、せん妄、無気肺、気管支痙攣、咽頭浮腫、イレウス、腸管麻痺など
- 【F】 20～47% (1)
- 【tmax】 モルヒネとして速放部：0.7～0.9hr，徐放部：8.4～9.8hr (1)
- 【代謝】 大部分は肝臓で3位及び6位のOHがグルクロン酸抱合されて、モルヒネ-3-グルクロニド (M3G) 及びモルヒネ-6-グルクロニド (M6G、薬理活性あり) となる。一部N-脱メチル化又はO-メチル化されて、ノルモルヒネやコデイン等になる
- 【排泄】 尿中未変化体排泄率 2.4～5.8% (1) 尿中にM3Gとして64.5～82.9%，M6Gとして7.3～15.7%回収 (1) 【CL/F】 61.7±7.8mL/min/kg (1)
- 【t1/2】 モルヒネ：11.3～13.5hr，M6G：1.9hr，腎障害患者 7.4hr (1)
- 【蛋白結合率】 33.6～35.6% (1)
- 【Vd】 60～90L/kg (1)
- 【MW】 375.84
- 【透析性】 HDF 除去率 75%，HD 除去率 45% (1) HD でM3G 47%，M6G40%除去 (1)
- 【血中濃度】 癌患者において鎮痛効果を満足させる血中濃度の幅：16～364ng/mL，中毒死亡時の血中濃度 0.1～2μg/mL (1) 【O/W 係数】 LogP=-0.1 [1-オクタノール/水系，pH7.4] (1)
- 【更新日】 20140820

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。